

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 事業所番号, 法人名) and Value (e.g., 4072300462, 社会福祉法人 南八女福祉会).

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先 and URL (http://www.kai gokensaku.jp/40/index.php).

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 4 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日, 評価結果確定日.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お茶畑に囲まれた静かな立地を生かし、落ち着いた空間の中でゆっくりとした時間を送る事ができるように配慮し、サービスを提供している。近くにある保育所・小学校の通学路も近くにあり、コロナ禍以前は、子供たちとの交流も行いながら地域に根差したサービスを提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲には、住宅や茶畑がある閑静な場所に「グループホーム いずんじま」は建っている。平屋造りで敷地も広く小さな畑もあり、農作物も育てる事が出来る環境である。敷地内には様々な木々や花が植わっており、季節に応じて木々や花々を楽しむ事が出来るため、日常的な外出支援として散歩も楽しめる環境である。現在はコロナ禍であるため、地域の行事が中止になったり、開催されたとしても参加を控えている状況であるが、従来であれば、地域の小学校で開催されるお祭りに参加をする等、地域との交流も図っている。また、看取り介護も実施し、住み慣れた所で最期まで生活出来る体制を整えており、利用者が少しでも楽しく穏やかに過ごす事が出来るように取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement Criteria (with checkboxes), and Evaluation Results (with checkboxes).

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの運営理念をユニットの各所に掲示し職員だけではなく入居者・入居者家族にも理解してもらえるように実践している	各ユニットの入口や事務所、廊下等、数か所に理念を掲示して、職員が事業所のどこにいても見えるようにしている。職員の入社時には、管理者が理念についての研修を実施している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議では民生委員・主任児童委員に参加を要請し、コロナ禍以前は地域で開催される祭りにも積極的に参加していた	コロナ禍以前は、近隣の小学校で地域の祭りが開催されていた。そのため参加をしていたが、現在はコロナ禍で開催されていないため参加は来ていない。運営推進会議の際に、地域の方々が参加をされる等地域の方々ととのつきあいがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	24時間365日スタッフが居る状況と地元小学校の通学路という地域環境を考えて、子ども110番(安全ハウス)の登録を継続している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間行事の報告や事業所の取り組み研修の内容など報告・説明を行ないサービスの向上につなげる事ができるようにしている	コロナ禍でありながらも、昨年の10月と12月は開催をしている。それ以外の開催は書面開催としている。構成員の方々には会議録を手渡しで持って行き、事業所の取り組みや現状を伝える様に努力している。年間計画や外部評価結果についての報告も実施している。また、運営推進会議の中で、身体拘束に関する研修の実施状況の報告をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政と地域密着型サービス事業所で行っているサービス連携会議や運営推進会議等で交流を図っている	新型コロナウイルス感染症の報告や感染対策についての情報提供について、市町村との連携を図っている。空床が発生した時は、市に報告をする等空床情報の共有をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行なわないように研修を取り入れられている。玄関の施錠は行わない	身体拘束を実施している利用者はいない。センサーを利用されている利用者が5名程度いる。センサーの利用開始時に、センサーの利用目的を説明して利用についての承諾を口頭にて得ている。「身体拘束廃止に関する指針」を策定しており、身体拘束廃止に関する研修は毎月実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外での研修・事例検討を通じて今後も防止に努める		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本人や家族の申し出がある場合に資料を交え説明等行えるようにしている	以前は、日常生活自立支援事業を利用されている利用者がいたが現在はいない。身体拘束廃止や成年後見制度についての研修資料を職員に手渡して回覧をしている。事業所内に成年後見制度についてのパンフレットを準備している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行ない理解を求めよう交付している		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書及び重要事項説明書交付時苦情処理の件に関しても説明を行なっているが、現時点で実績はないので運営への反映は行われていない	「意見箱」を事業所入り口に設置している。コロナ禍で面会出来ないが、「窓越し面会をしながら携帯電話で話が出来るとして欲しい」、「テレビ電話をして欲しい」との意見が利用者家族より出たため、ガラス越し面会を実施しており、家族の意見を反映している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行なう定例会議の中で議題や今後行いたい研修など意見を聞き取り反映している	毎月開催している定例会議や、毎年の辞令交付の際に職員面談を実施している。その際に職員の意見を聴く機会を設けている。コロナ禍で外出レクレーションを実施したいとの意見が職員から出たため、感染に考慮しながら外出を徐々に出来る様にする等、職員の意見を反映するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	可能な限り配慮している		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢や性別・国籍等で可否の結果を出すことはない。一人ひとりの能力や人柄で判断している	20歳代から70歳代の方々が勤務している。職員の募集については、性別や年齢等を理由に採用対象から排除するような対応はしていない。楽器演奏が得意な職員がいるため、フルートや三線を披露して、職員の特技を生かした勤務が出来ている。研修に関しては出勤扱いで受講できるような体制である。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	事業所内研修に取り入れてる	人権教育に関しては、事業所の研修資料を全職員に配布して呼んでもらうようにしている。研修を実施した際は感想文を提出して、研修内容をフィードバックする様にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修に積極的に参加できるように配慮している定例会議ではそれぞれのスタッフが自ら研究発表を行なっている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八女筑後地区介護保険事業者連絡協議会・八女市地域密着型サービス連携会議に所属し、定期的開催される勉強会・研修等に参加している		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	精神・身体状況を家族に記入もしくは聞き取りを行ない可能な限り把握できるよう努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に困っていた事や不安に感じていた事等聞き取りを行ないホームでの生活に役立てることができるようにしている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を決めるまでの間ぎりぎりまで介護を続けている家族の状況を考えて、サービス開始の相談に乗ることができるよう心掛けている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者との関係を築けるよう努力している		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	サービスを行なう上での家族からの情報は不可欠なので綿密な連携をとれるように関係を築いている		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている	利用者本人と家族との間で手紙や年賀状のやりとりをして、少しでも関係が継続出来る様にしている。コロナ禍以前は、家族と一緒に外出や外泊をする利用者もいたが、現在はご遠慮いただいている。家族から利用者宛に電話があった際は、電話を取次いで会話が出来る様にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係が損なわれないよう声掛けを行ないそれぞれでの会話やコミュニケーションが取りやすいように席の配置など配慮している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて情報の提供を行なえるよう配慮している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り配慮している	入居時に「個人記録台帳」を利用者家族にお渡しして記入してもらい、入居時の生活状況や趣味等を把握するように取り組んでいる。入居後は、日々の関わりの中で利用者の意見をお聴きしたり、ケアプラン更新時には利用者家族に電話連絡をしたりして思いや意向の確認をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報と本人・家族からの聞き取りを行ない生活の把握に取り組んでいる		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の業務日誌・個人記録等で状態の変化に気づけるよう配慮している		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に沿いホームでの生活に満足できるよう配慮している	ケアプランやモニタリングの作成は、計画作成担当者が作成をしている。ケアプラン更新者がいる月は、定例会議後に職員からケアプランについて意見を聞いて、ケアプランに反映させている。ケアプラン更新時について変更があった場合は家族に報告をしている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りの為の記録を複数準備して、その時々状態に応じた記録ができるように考えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一敷地内にあるデイサービスセンターとの交流や地域への祭り等へ参加を行ない入居者が様々な場所へ出かけることができるように配慮している		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からの主治医は継続する方もいる。事業所として主治医と良い関係が築けるよう努力している	入居する前からの主治医に受診している方が6名前後おり、利用者や利用者家族の意向に沿うようにしている。入院後や入居後に主治医の変更の希望がある場合も、利用者や利用者家族の意向に沿うようにしている。他科受診については基本的には事業所職員が対応をして、医師に状態を伝える様にしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護職の関係はスムーズで連携が取れている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後、MSWや病棟看護師などの病院関係者との情報交換に努めている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としての重度化・終末期になった場合の対応方法を入居説明時、契約時に書面をもって説明を行ない了承してもらっている	看取り介護の対応をしているが、今年度は看取りの事例がなかった。「重度化した場合の対応に係る指針」を作成している。その中に費用の取り扱いやターミナルの援助方針などを指針に沿って説明をして同意をもらう体制にしている。看取りに関しては体制面については入居時に説明をして、実際に看取りの状態になった際に、囑託医を含めて今後の方針を話し合う様にしている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応方法や緊急時対応の方法などマニュアルを用いて初期対応できるように心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	通報・避難・消火訓練を行なっている。夜間を想定した訓練も行ない地震等の災害に応じた訓練も行なっている	火災だけではなく、風水害、地震に関しての避難訓練を実施している。避難訓練は年2回実施している。大雨時や地震が発生した際には消防団から安否確認を積極的に実施してもらっている。水消火器の訓練も実施しており、法人研修の中でAEDや緊急時の対応の研修を実施している。	災害は、いつ起きるか分からないため、日中想定避難訓練だけではなく夜間想定訓練も実施してはどうだろうか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇や言葉使いの研修やDVD等も準備して各自学ぶ事ができるようにし、日ごろから対応できるようにしている	接遇やマナー研修時にDVDやYouTubeを活用して研修を実施している。女性の利用者で同性介助を好まれる方は、可能な限り対応をしている。言葉遣いについて、不適切な発言がある場合は職員に改善を促したり、定例会議の時に改善を促している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で問いかけるような声掛けを行ない自ら決定できるように働きかけている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り支援している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ禍以前は希望により買い物に出かけ好みの洋服を購入したり身だしなみに気を付けている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの役割の中で段階的に手伝う機会を設けて無理のない範囲で準備や片付けを行なっている	夕食のみ冷凍の食事を温めて提供し、朝食と昼食は事業所内で調理して提供している。調理の際には、いりこの頭取りやお茶をティーバックに詰める等、利用者が出来る事してもらっている。事業所敷地内で採れた柿を干し柿にするために、皮むきやつす作業の手伝いを利用者にしてもらっている。お菓子作り等、職員と利用者が一緒にする事もある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の計算のもと食事を提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎日行なう。義歯も洗浄剤を使用し毎日ケアを行なっている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	水分摂取量と排泄の状況の確認を行ない定期的な声掛け・誘導に努めている。	排泄チェック表を作成して、排泄のタイミングを把握しやすくしており、利用者のタイミングをみてトイレ誘導をしている。トイレ誘導をする事によって、失禁の回数が減った利用者もいる。基本的にはトイレ誘導をして排泄がトイレで出来る様にしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医の指示のもと予防に取り組んでいる。食物繊維や乳製品等必要に応じて取り入れ便秘の予防を行なっている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴の準備を行なっている。それぞれ週に2～3回入浴を行なえるよう配慮している。本人の希望や体調等見極め支援をしている	週2回から3回入浴支援をしている。入浴補助用具を活用して浴槽につかる事が出来る様にしているが、難しい場合はシャワーキャリーを使用して、シャワー浴を実施している。利用者の好みの洗顔フォームを利用している利用者がある。また入浴剤も利用者を選んでもらって利用している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡等行ない状況に応じて対応している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医から全ての薬の説明をもらい、薬科辞典も常備し理解を深めている。また、地域の薬剤師との連携を行ない薬の使用や管理方法なども取り入れている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケやカルタ、計算ドリルやパズル等、その他レクリエーションを行ない、それぞれが楽しめるように支援をしている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内害問わず散歩を積極的に行っている。またコロナ禍以前は外出レクを通じて四季を感じてもらい普段は出かけない場所へも行けるよう配慮している	コロナ禍以前は、花見をしたりドライブをしたり、家族と外出する機会もあったが、現在はご遠慮してもらっている。最近では近隣の神社に初詣に行ったり、今後は花見や藤を見に行く予定になっている。日常的に敷地内の散歩をしたり、小さな畑があるため作物を育てている。職員と一緒に利用者が水やりをしたりしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍以前は外出レクや買い物の際にお小遣いから買い物を楽しめるよう支援している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	全ての部屋に電話を引くことができる。最近では携帯電話を持ち込み家族等自ら連絡を取れるようにしている入居者もいる		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光の差し込む居間では日向ぼっこができる椅子やマッサージも行なえるよう配慮し居心地の良い空間を気がけて作るようにしている。	事業所は平屋造りで、テーブルや椅子、ソファ、畳の部屋、テレビ、カラオケセット、観葉植物等があり、猫を1匹飼っている。足のマッサージ器があり使用している方もいる。写真はアルバムに入れて玄関先に飾ったり、利用者が作成した作品を廊下に貼っている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者同士が近くに座れるよう座席の配置を考えている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から使い慣れた家具等持参する入居者もいる。廊下に面した外扉と内扉を配置してプライベートなスペースとして住みやすくなるよう配慮している	介護用ベッドが必要な利用者に関しては介護用ベッドを提供し、必要ない方は簡易ベッドを利用されている。各居室には、カーテン、電灯、押し入れ、トイレ、洗面台が設置してある。家族写真や行事で作成した作品等、利用者の思い思いのものを飾っている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には本人の部屋と認識できるように配慮し部屋を間違えないようにしている		